Ⅱ. 2020 年度の支援

コロナ禍における支援

内容	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、昨年度の2月以降、開催プログラムが軒並み中止となり、その状況は 2020 年度に入って緊急事態宣言の発出を受け、さらに続くこととなった。本学のすべての授業の開始延期やオンライン化が進む中、本学では課外活動にあたるボランティア活動についても、そのガイドラインに従い、ボランティア紹介の停止をはじめ、様々な影響を受けることとなった。 コロナ禍という非常事態において、当センターでは、臨機応変に常に「今できること」を考え、次のように支援を行ってきた。 1. 広報の活性化 例年、4月のボランティアオリエンテーションに参加した新入生が、その後の当センターの企画に多く参加するという傾向があったが、今年度はそのような機会が失われたこともあり、少しでも学生がボランティア活動に関心を持つきっかけとなるよう、SNS(Instagram、Twitter)やメールマガジンの発信に力を入れ、学生とボランティアセンターがつながりを持つことを目指し、様々な方向から働きかけた。 多い時には、SNS を週に2～3回、メールマガジンを週1回程度発信した。これまでは、主にボランティアやイベントを紹介する内容が多かったメールマガジンも、今年度は、オンラインでのイベントの告知・報告、そして、一番身近である本学のボランティア経験者(在学生・卒業生)のエッセイを紹介していくことで、この先活動ができるようになった際に、一歩を踏み出すことができるきっかけとなるよう、発信し続けた。 また、これまでの SNS やメールマガジンでは、特定のサークルの紹介は行っていなかったが、「Online Welcome Week」の昼休みの時間だけでは、その魅力を伝えきれないという今年度の反省点を鑑み、関係するボランティアサークルに呼びかけ、順番にその情報を掲載し、各サークルの SNS で最新情報が見られること等もあわせて周知した。 2. オンラインの活用 ①Online Welcome Week、オンラインボランティア・カフェ等の開催 (プログラムの開催情報については、本報告書 P.9以降を参照。) 「ボランティアを通じて自分自身が成長した、考え方が変わったこと」などをテーマに、語り手である学生にとっては自分の言葉で語りやすいこと、そして、聞き手である学生には参加したことで温かいつながりを感じられるように、内容や雰囲気作りを心掛け開催した。また、録画したプログラム等を参考に、毎回スタッフ間でフィードバックを行い、改良を重ねた。 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、中止になったものも多くあったが、これまでとは違う形で、今年度開催したオンラインイベントもまた、学生同士や学生とボランティアセンターをつなぐ有効なツールとなった。オンラインプログラムの開催を通じて、学生同士も、お互いに新しい発見があったようである。コロナ終息後も、状況に応じて柔軟な形でオンラインを支援に活かしていきたい。 ②ボランティア相談、サークル面談等の支援 学内の課外活動に対する規制緩和に伴い、秋学期より、これまでメールやオンラインのみで受けていた個人の学生の相談を、事前予約制で対面でも可能とした。また、ボランティアサークル支援の面談は、6月から随時希望に応じて行った。(詳細は、本報告書 P.17 を参照。) 3. 他部署との連携 学生の興味・関心の幅を広げるための様々な情報を届けるため、部署間で以下のような協力を行った。また、当センターのホームページの改修や大学のコロナ関連のホー

	ムページへの情報提供も行い、学生がわかりやすく利用できるよう工夫を重ねた。 ①SNS、プログラムの相互協力 ・学内他部署の SNS アカウントの相互リツイート ・キャリアセンターのオンラインガイダンス用資料に、当センターの情報を掲載（2回） ・学生相談所の企画に、当センターのコーディネーターが参加し、センターの概要やイベントを紹介 ②コロナ禍におけるボランティア活動について 　学生部の『課外活動ガイドライン』の遵守を条件に、8月1日（土）より課外活動が段階的に認められることとなった。本学のボランティア活動もこの基準に従うことから、夏季休業に入る前の7月下旬に、ボランティアセンターの支援対象となる 19 サークルの代表・副代表宛に、メールで夏季休業中の活動に関する連絡を行った。 　注意喚起、感染対策への留意事項に加え、万が一の場合の追跡等のリスク管理も考え、活動を行う場合の事前・事後報告、参加者名簿等を定型様式で取りまとめ報告するようにした。また、公認団体／未公認団体の管轄の関係で申請先が変わるため、学生部と密接な情報共有を行った。 　秋学期以降も、新型コロナウイルス感染拡大を踏まえ、緊急事態宣言発出中のボランティア活動については、極力対面でのボランティア活動を控え、「他者を思いやり、活動を中止・延期することも大切である」ということを繰り返し発信している。